



京機短信

KEIKI short letter

No.394 2024.07.05

京機会(京都大学機械系同窓会)

tel. & fax. 075-383-3713

E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp

URL: <http://www.keikikai.jp>

編集責任者 京機短信編集委員会

目次

- ・「九日会」の紹介と参加のお勧め……永井 将 (pp.2-3)
- ・九州支部 春の行事開催のご報告 ～九州、長崎で考える「戦争と平和」～
……中村久志 (pp.4-5)
- ・関東支部 写真同好会第24回撮影会(2024年6月1日)の報告……山下真司 (pp.6-8)
- ・series 研究最前線(16) トポロジー最適化によるデザイン……古田幸三 (pp.9-13)
- ・平研・大谷研同窓会のご報告……横幕俊典、中井善一、武 浩司 (pp.14-15)
- ・応用物理・応用分光学・光工学研究室同窓会のご報告
……Kuzmin Arseniy、四竈泰一、蓮尾昌裕 (pp.16-17)
- ・「傘寿記念同期会」報告……川合 等 (pp.18-21)
- ・琵琶湖周航の同期会……藤川卓爾 (pp.22-23)

京都大学桂キャンパスCクラスターC3棟1階に、学生及び教職員の福利厚生環境充実のため、一般財団法人 森記念製造技術研究財団の多大なるご支援により、カフェテリアcenatio silva(ケナティオ シルヴァ)が設置されました。連日行列ができる盛況ぶりです。カフェテリアでの研究室同窓会の開催報告も今月号の記事にあります。皆様も是非ご活用ください。



カフェテリアcenatio silvaでの
同窓会パーティーの様子

「九日会」の紹介と参加のお勧め

永井 將 (S31/1956卒)

京都大学工学部機械工学教室の同窓会には、大学の先生方がお世話をする全国規模の京機会（京都大学機械系同窓会）のほかに、関西では、戦前より企業の卒業生が運営する「九日会」があり、当初は毎月9日夕刻に大阪駅前第一生命ビル最上階で、開催通知無しで夕食会がもたれていて、昭和20年代には、住友金属の広田壽一社長（T12/1923卒）や東洋紡の阿部孝次郎社長（T10/1921卒）をまじえ、大学の先生方も参加して盛大であったと聞いており、小生も昭和31年学部卒業後33年院修卒の院生時代に参加したようなほのかな記憶があります。

当時の九日会は、関西で卒業生が比較的多い企業12社が年次回り持ちで担当して、1月には数十社から寄付を集めて福引抽選会つき新年会を盛大に実施していました。小生は院修卒業後、12社の中の日立造船に入社しましたが、昭和30年代に1月の新年会を一度とその他の月の会を数回担当した記憶があります。それが、いつからか開催場所が変わるとともに、毎月開催が2ヶ月に一度、3ヶ月に一度・・・となって結局新年会のみになりました。

平成に入って京機会の活性化の機運が高まり、平成11年、嶋本 讓京機会会長（S29/1954卒）の要請を受け、九日会をベースに企業の卒業生が運営する関西支部を創設し、続いて関東、中部、中国・四国、九州に支部を立ち上げ、その活動は大学の同窓会として全国一と自負する声が出るほどになりました。

一方、卒業生で、大矢根守哉先生（S21/1946卒）、尾谷博敏氏（S23/1948卒）、森川龍一氏（S25/1950卒）は九日会の伝統を残したいと、関西支部設立の期に九日会の名を冠した卓話午餐会を立ち上げました。12月を除く偶数月の9日（日曜日の場合は8日）、大阪の中央電気倶楽部（右記写真：大阪駅から徒歩12分）



にて、11時から卓話1時間、正午から昼食、質疑応答、会務報告などで14時解散でして参加会費は4000円です。

趣旨に賛同した小生は、昭和31年卒有志を募って年次幹事を引受けて5回の

卓話を段取りし、順次卒年有志が引き継いで、途中コロナ禍で若干の混乱がありました。オンラインの卓話を提供するなどではほぼ順調に推移し、今年（昭和53）年卒有志が担当しております。

なお午餐会の運営は運営幹事（川合 等（S42/1967 卒）、並木宏徳（S44/1969 卒））が担当しております。

ところで、参加者の最大の関心事は、卓話の題目と講演者と思われませんが、それは年次幹事の自薦・他薦に依って立案し、毎例会毎に、開催通知を九日会運営幹事から参加登録者へ、京機事務局から全会員へメールしておりますので、卓話の内容だけでなく、その質疑応答や討論の機微を体感していただき



きたく、ご参加いただきますようお願いいたします。（終） 2015年6月例会の風景



2022年4月例会の風景

2024 年度九州支部春の行事開催のご報告 ～九州、長崎で考える「戦争と平和」～

中村久志（S56/1981 卒）

九州支部では長年続けています「各所を巡るツアー」と「モノづくりの魅力を若い人達へ伝える」活動の見学会を春の行事として6月15・16日（出前授業14日）に開催しました。会員6名がご参加くださいました。以下、概要報告です。



1. 6月15日「原爆資料館」・「平和祈念公園」見学と「現在の長崎市街」俯瞰

15日は長崎駅集合。西九州新幹線が開業し、駅も新築、新しいホテルや施設もオープン、工事中のエリアもあり活みなぎる街の玄関口です。

①駅前から、かわいい路面電車に乗って平和祈念公園エリアへ。「原爆資料館」では、海外の方も多く、皆さん真剣な表情で展示品や資料に見入っておられました。

②長崎市街を一望する・・・稲佐山展望台へ

被爆50周年記念事業碑

長崎への原爆投下から79年。今では見事に広がる長崎の街を、稲佐山山頂から俯瞰しました。

ここでは一同、平和の尊さを感じた次第です。

すぐ下には三菱重工の工場、また、軍艦島も遠望できました。

下山は「スロープカー」！

・・・珍しい乗り物に乗れました。

スロープカー



③懇親会・長崎中華街

長崎中華街に場所を移し、懇親会を開催しました。今回のテーマの「戦争と平和」はもちろんのこと、同窓会の運営や「出前授業」のことなど、喧々諤々・・・討議は延々と続き、お店の方の「閉店でございます・・・」でお開きとなりました。



各自、思ったことや考えたことを気兼ねなく（年次も関係なく）議論できる素晴らしさを感じた懇親会となりました。

2. 6月16日 長崎出島見学とグラバー園見学

翌日は有志で、「出島」とグラバー園を散策。本場長崎ちゃんぽんを堪能！



出島



幸せのハート石

※最後に、グラバー邸の石畳の中に「幸せのハート石」を発見し、めでたく終了いたしました！

◆6月14日 久留米高専と北九州高専（リモート）での「出前授業」

中部支部、廣野陽子さん(H19/2007卒)による、機械系学生（3年生約150名）対象の「出前授業」を実施しました。最新技術の紹介や将来の進路決めへの悩みなど、幅広い内容で、学生さんたちも興味津々、熱心に受講されていました。受講後の、素晴らしいレポートもいただきました。初めてのリアル+リモートでの実施課題、なども含め今後の大切な財産としていきたいと思います。



「失敗してもやり直せる！」
の言葉が最高に響きました！

3. 結び

九州支部では「楽しむ」「社会貢献」をキーワードに活動しています。今回は「戦争と平和」という大きなテーマでしたが、懇親会では、京機会ならではの議論も白熱！参加者全員での語り合いができて、楽しい思い出一杯の行事となりました。ご参加・ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

◎他支部の方も熱烈歓迎です！お待ちしております！！

関東支部 写真同好会第24回撮影会（2024年6月1日）の報告

山下真司（S63/1988 卒）

春の写真同好会は、6月1日（土）に東京都大田区羽田空港にて撮影会を実施いたしました。

心配された天候にも恵まれ、羽田空港神社でお参り後、第一ターミナルと第二ターミナルの展望デッキより撮影を楽しみました。



作品の一部を紹介いたします。



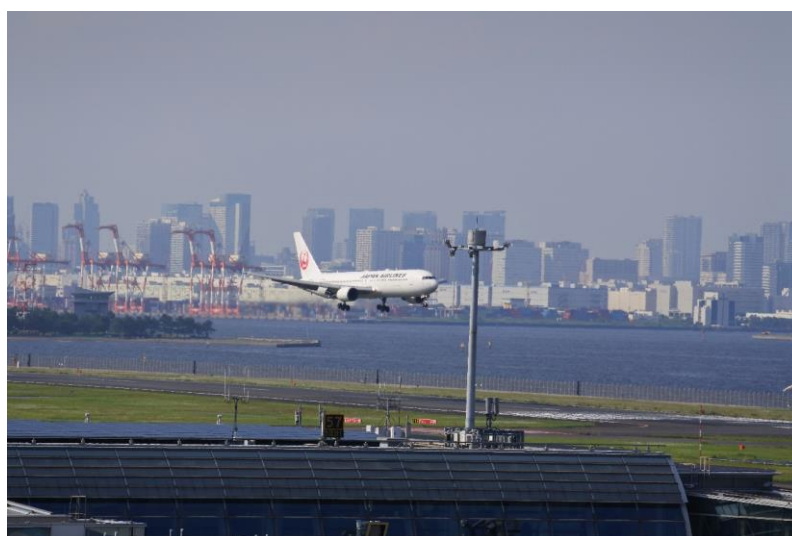
「スカイツリーを背に小型機のランディング」中村 定さん(S44/1969 卒)



桜井文隆さん (S45/1970 卒)



「到着・出発」秋園純一さん (S50/1975 卒)



「A滑走路に到着！」増本雄治さん (S48/1973 卒)



「管制塔」 山下真司さん (S63//1988 卒)

その他の作品も紹介しておりますので、写真同好会報告ページもご覧ください。

<https://keikikai.jp/7830/>

トポロジー最適化によるデザイン

古田幸三 (H25 /2013 卒)



「誰でも構造最適化できるのか？」

1. はじめに

私は現在、マイクロエンジニアリング専攻デジタル設計生産学寄附講座に所属しています。そこで、機械理工学専攻の西脇眞二教授、韓霽珂特定助教、マイクロエンジニアリング専攻の泉井一浩教授、Lim Sunghoon講師らと共に、構造最適設計法の構築に取り組んでいます。構造最適化とは、あらかじめ決められた設計・境界条件から所望の性能を最大限得られる構造・形状を求める方法論です。この設計法は寸法最適化、形状最適化、トポロジー最適化（形態最適化）の三種類に大別されます。寸法最適化とは、梁の高さなどの寸法・パラメータを設計変数する設計手法です。そして、形状最適化は、構造の外形形状自体を設計変数とするため、寸法最適化に比べ設計自由度が高くなり、より高い性能を持つ構造の創成が期待できる設計法です。これらに対して、トポロジー最適化は、外形形状だけでなく、構造内部の孔の数という形態をも変更可能な最も設計自由度の高い設計手法であり、大幅な性能改善や革新的な機能・機構をもった構造の創成が期待できる方法です。私たちのグループでも、主にこのトポロジー最適化を対象とした設計手法の開発に取り組んでいます。その中で私の目標の一つに、誰でも構造最適化を利用可能な環境を提供することがあります。ここでは、この目標に対して現在の取り組みを紹介したいと思います。

2. トポロジー最適化の基本的な考え方

本章では、トポロジー最適化の基本的な考え方、それをベンチマーク問題である片持ち梁に適用した例を紹介します。詳細について勉強されたい方は、本稿を執筆するにあたり参考にした[1, 2]をお読みいただけたら幸いです。

トポロジー最適化の最も核となる考え方は、構造最適化問題を材料分布問題に置

き換えることにあります。つまり、図1に示すような最適構造 Ω を包含するような固定設計領域 D を導入し、次式の特異関数 χ_Ω を用いて最適構造を表現することにあります。

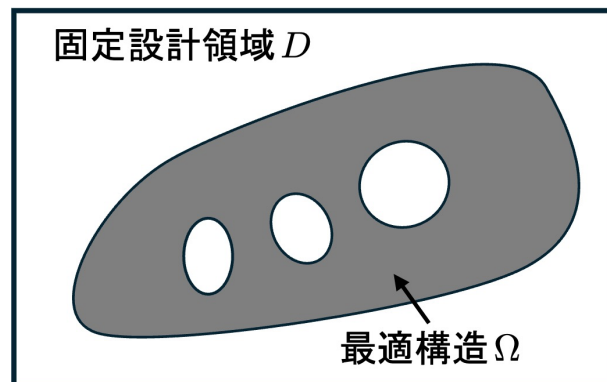


Fig. 1 固定設計領域 D と最適構造 Ω の関係

$$\chi_\Omega(\boldsymbol{x}) = \begin{cases} 1 & \text{if } \boldsymbol{x} \in \Omega \\ 0 & \text{if } \boldsymbol{x} \in D \setminus \Omega \end{cases} \quad (1)$$

ここで、 \boldsymbol{x} は固定設計領域内の位置を示します。この χ_Ω の分布を、数理的手法を用いて求めることがトポロジー最適化の基本的な考え方になります。特異関数という名の通り、この関数は悪い不連続性をもつ関数であり、何らかの方法で関数を滑らかにし、構造を表現する必要があります。詳細は[2]に委ねますが、SIMP (Solid Isotropic Material with Penalization) 法と呼ばれる緩和方法や、レベルセット法、フェーズフィールド法などが一般的な手法として用いられています。ここでは、SIMP法に基づき、剛性最大化問題を考えてみます。固定設計領域 D 内で定義される弾性テンソル \mathbf{D} を、材料分布を表現する連続関数である密度関数 ρ を用いて次式のように定義します。

$$\mathbf{D} = \rho^p \mathbf{D}_0 \quad (2)$$

ここで、 \mathbf{D}_0 は最適化対象の材料の弾性テンソルです。 p はペナルティパラメータであり、多くの場合3が用いられます。これをもとに、図2-(a)で表される設定に対する剛性最大化問題の定式化を行うと次のようになります。

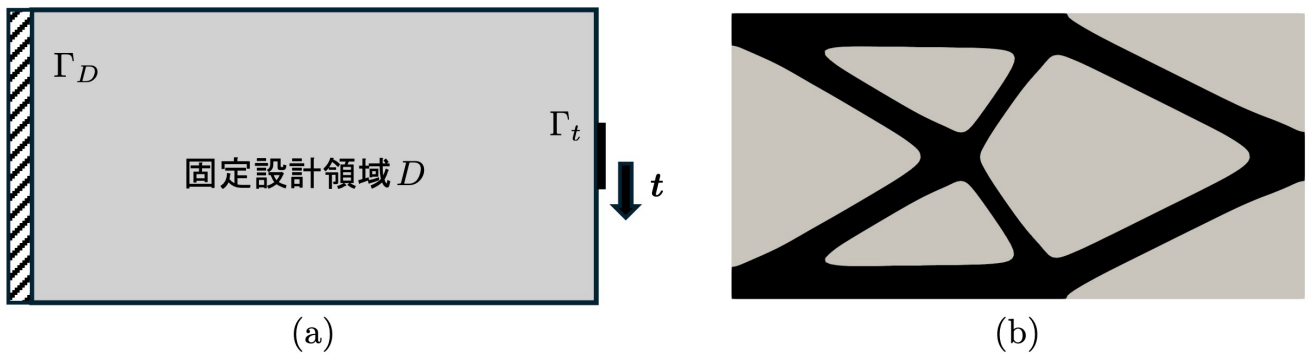


Fig. 2 剛性最大化問題の(a)固定設計領域および境界条件、(b)最適構造

$$\min_{\rho} J(\rho) = \int_{\Gamma_t} \mathbf{t} \cdot \mathbf{u}(\rho) d\Gamma \quad (3)$$

subject to

$$\int_D \sigma(\mathbf{u}(\rho)) : \epsilon(\tilde{\mathbf{u}}) d\Omega = \int_{\Gamma_t} \mathbf{t} \cdot \tilde{\mathbf{u}} d\Gamma \quad (4)$$

$$\text{Volume} \leq \text{Target Volume}$$

ここで、 t は境界荷重であり、目的関数は平均コンプライアンスです。 σ は応力であり、弾性テンソル(式(2))を含みます。そして、 ϵ は歪み、 u は変位であり、 \tilde{u} は試験関数です。この目的関数の最小化に対して、制約として体積制約(全体の35%以下)を付与します。この時の最適化結果例が図2-(b)となり、よく見る片持ち梁の最適構造を得ることができます。

以上が、最もよく知られているトポロジー最適化のベンチマーク問題になります。おそらく、ここまでは多くの書籍、Educational Articleを見ることで、ご自身でも同じような結果を描画することができると思います。しかし、ここから自分が設計したい問題を実際に解こうとすると、周りに経験者がいなければ行き詰まってしまうことが多くあります。これは、提供されるコードが片持ち梁だけにしか対応していないため、荷重や境界条件変えようとする、最適化をある程度理解し、インプリする技術が必要となることが理由として考えられます。

そこで、学生や企業で導入検討しているエンジニアが勉強を始める際の一助となるように、教育用のパッケージの開発に取り組んできました。そこで、次章ではその取り組みについて紹介します。

3. 誰でもトポロジー最適化を体験できるように

私は現在のデジタル設計生産学寄附講座に異動してから、教育用最適化プログラムとして、CADソフトウェアで作成した任意の形状に対して、剛性最大化問題を解くことが可能な最適化プログラムの開発に取り組んでいます。Pythonで提供されている有限要素パッケージFEniCSおよびその後継のFiredrakeをもとにプログラムを構築しており、本プログラムの強みとして、無料でかつ、ノートパソコン上で動作可能な点があります。主な使用用途としては、研究室配属時の4回生の課題や高大連携の一環で研究室にショートステイする生徒向けに利用しています。また、奈良で開催された国際学会(ICPE2022)における展示ブースでも、講習会を開催しました。図3にその時の様子と、数値計算例を示します。この時は、CADソフトウェアのRhincerosで入力ファイルの作成、境界条件等の設定、最適化計算、3Dプリンタへ出力可能なSTLファイルの生成までを体験するコースでした。そして、後日3Dプリンタで実際に構造を出力するところまで確認を行いました。

また昨年度までに、泉井研究室の学生と協力し、コードの整理だけでなく、コンプライアントメカニズム設計や、熱伝導問題への拡張、最適化方法のオプション化などの機能拡充を行いました。今後もプログラムの改善を行うと共に、講習会の内容についても充実させていく予定です。

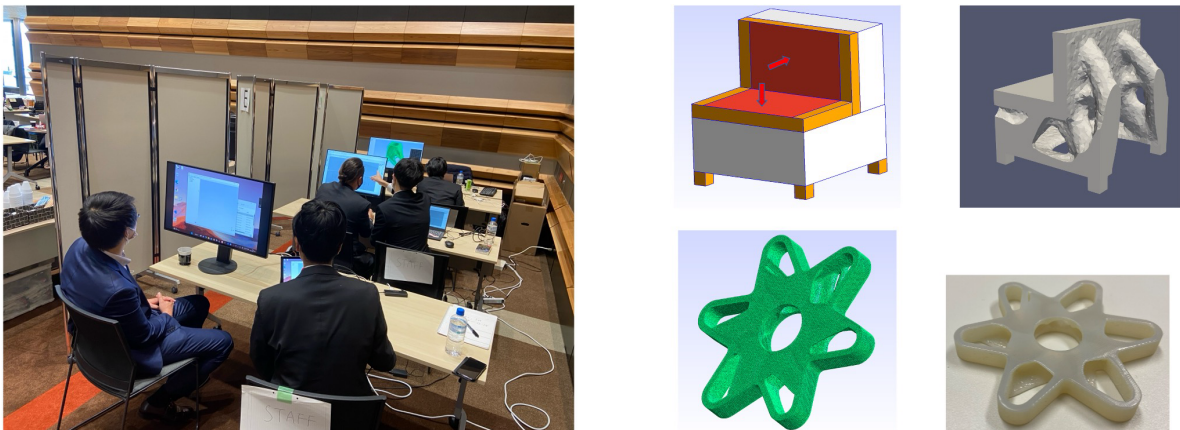


Fig. 3 トポロジー最適化講習会の様子および数値計算例

4. おわりに

本稿の最初の問いに答えるために、今回は教育の面に焦点をあてて私たちの取り組みを紹介しました。トポロジー最適化は1980年代後半に始まり、30年以上が経ち、最近では乱流問題に代表される複雑な物理への適用や、いわゆるAIや機械学習との融合などに発展しています。このような状況の中で、初学者と研究の最前線

とのギャップを少しでも埋める一助に、大学発の私たちの取り組みがなれば幸いです。最後に、本最適化プログラム・講習会のパッケージ作成に協力してくれた泉井研の修了生・学生の皆さんに感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 西脇眞二、泉井一浩、菊池昇：計算力学レクチャーコース トポロジー最適化、丸善出版、(2013)
- [2] 近藤継男、矢地謙太郎、西脇眞二：トポロジー最適化の基礎-弾性体ならびに熱流体関連工学諸問題への応用のために-、コロナ社、(2024)

Profile

京都大学大学院工学研究科マイクロエンジニアリング専攻デジタル設計生産学寄附講座 特定助教

1989年、山口県下関市に生まれる。2013年、京都大学工学部物理工学科を卒業。2015年に同大学大学院工学研究科機械理工学専攻博士前期課程修了。2018年、同博士後期課程修了後、博士号取得。2020年から京都大学大学院工学研究科特定助教。

研究室HP

https://mmc.me.kyoto-u.ac.jp/digital-design/index_ja

平研・大谷研同窓会のご報告

横幕俊典（S48/1973卒）、中井善一（S52/1977卒）、武 浩司（S54/1979卒）

2024年6月8日（土）、ホテル京阪・京都グランデにおいて、平研・大谷研同窓会を開催しました。前回の開催は2017年10月でしたので、6年半ぶりです。京機会には名簿作成でお世話になりましたが、前回以後に退職されたため、連絡ができなくなった同窓生も多くおられました。また、COVID-19の影響で暫く開催できない間に、高齢のため参加できなくなった同窓生も多く、今回は1965年学部卒業の方々が最高齢で、大谷隆一先生（S37/1962卒）が京都大学を退官される2000年までの同窓生70名に参加していただきました。大谷隆一先生も参加されることになっておりましたが、本年3月にご自宅前で転倒骨折され、リハビリ中とのことでご出席いただくことができませんでした。そのため、ご長男の大谷洋介様が代理でご出席され、先生のご挨拶文を代読していただきました。先生の近況をご報告いただくとともに、ご研究の集大成である『高温強度論』及びご自身と奥様が撮影された『写真集』、二冊の最近出版された本についてご紹介いただきました。また、「歩くときは、一二、一二と声を出して歩きましょう」とのユーモアのあるご助言を紹介していただきました。

横幕幹事による開会の挨拶の後、北川正樹様（S40/1965年卒、元IHI技術研究所、元物質・材料研究機構理事）には、大谷先生がこれまでに歩んでこられた道と高温強度研究に平研が果たしてきた役割をお話いただきました。また、田中啓介先生（S41/1966年卒、名古屋大学名誉教授）には、X線材料強度研究と疲労強度研究においてご自身が築いてこられた道と、研究室の研究を振り返るお話をいただきました。お二人のお話を伺うことによって、改めて自分たちが所属していた研究室が、世界における材料強度学研究に果たしてきた役割の大きさについて、思いを馳せることになりました。

北村隆行先生（S52/1977年卒、元京都大学理事・副学長）による乾杯のご発声の後、各年代の方々から研究室におけるさまざまなエピソードをご紹介いただき、笑あり、涙ありの感慨深い思いに浸ることができました。

残念ながらご病気治療中、或いはご両親の介護のために出席できなかった方も何名かおられました。快癒の折には出席したいと力強いメッセージもいただきました。次回も多くの同窓生にとって、互いを支え合い、励まし合える場となることを願って、次の担当幹事3名に引き継ぎました。

次回も多くの同窓生の方々にご出席いただけますよう、連絡先が変更となりました同窓生の方は、ぜひ、京機会にご連絡いただきますよう、お願い申し上げます。



平研時代の同窓生と大谷洋介氏



大谷研時代の同窓生

応用物理・応用分光学・光工学研究室同窓会のご報告

Kuzmin Arseniy (H18/2006卒)

四竈泰一 (H14/2002卒)

蓮尾昌裕 (S61/1986卒)

6月15日(土)に桂キャンパスCクラスターC3棟で、応用物理・応用分光学・光工学研究室の同窓会を開催しました。本同窓会は福田研・藤本研・蓮尾研の同窓会です。前回(2017年4月)から7年ぶりの開催となりましたが、遠方からも多くの方々にお越しいただき、所属学生と合わせて60名の参加となりました。会場としてこの4月に改装された1階のカフェテリア cenatio silva (ケナティオシルヴァ: 設置・プロデュースは森記念製造技術研究財団) を利用し、カフェテリアの運営に新しく入られた奈良交通にとって初めてのパーティー対応となりました。

同窓会は正午より、世話人代表の蓮尾による開会挨拶、それに続く藤本孝名誉教授(S39/1964卒)からの研究室の歴史の紹介と同窓生への示唆に富む挨拶で始まりました。次に同窓生を代表して小川真一さん(S52/1977卒)に乾杯のご発声をいただきました。すぐに歓談で会場は熱気に包まれ、またローストビーフをはじめとしたおいしい食事を堪能しながら、旧交を温めました。途中、蓮尾が頼まれたら断れない性格の功罪を披露しつつ、研究室と大学の現状報告を行いました。最後は全員で記念撮影をしてお開きとなりました。



藤本 孝



小川真一



蓮尾昌裕

終了後は、学生に実験室と研究室の見学案内をしてもらいました。全員に近い方が見学に参加され、その後研究室では、学生と同窓生、または同窓生同士で夕方5時近くまで名残惜しく交流が続きました。次回（3年後を考えています）の再会を約束して、散会となりました。



全体写真



研究室での歓談の様子



実験室見学の様子

当日の写真は、以下の URL でご覧いただけます。

<https://photos.app.goo.gl/jYdui7g9jEjbKVxH6>

「傘寿記念同期会」報告

川合 等 (S42/1967卒)

令和6(2024)年5月28日、29日にS42(1967)卒(S38(1963)入学)の全体同期会を開催しました。このメンバーの多くが今年80歳を迎えますので「傘寿記念同期会」としました。平成29(2017)年4月に、多くのメンバーが在住する関東と関西の中間地点の伊勢・鳥羽で「卒業50周年記念同期会」を開催しましたが、今回は「琵琶湖周航の歌」にちなんで琵琶湖南部で開催しました。

5月28日夕方に大津市の琵琶湖ホテルで懇親会、その前に三井寺と日吉大社参拝の計画を立てました。

28日朝起きてみると大雨です。警報が出て交通機関に遅れが発生しているところもありました。そんな中、正午にJR京都駅のホームで13名全員が定刻前に集合し大津に向かいました。雨は降っていましたが、琵琶湖ホテルを徒歩で出発し三保が崎の「琵琶湖周航の歌」の歌碑を經由し三井寺に行きました。三井寺では本堂が雨で霞んで見えませんでした。観音堂まで上がりましたが、琵琶湖を眺める余裕もありません。雨で衣服が濡れ、靴にも水がしみ込んできています。本来ならここから日吉大社に行く予定だったのですが、全員一致でホテルに帰ることにしました。ホテルでは温泉があり、雨で冷えた体を温めてゆっくりすることができました。



雨の中の三井寺本堂

懇親会には男性12名と女性（メンバーの配偶者）3名が参加しました。各人の近況報告とともに、学生時代の思い出話で楽しいひと時を過ごし、「琵琶湖周航の歌」を歌ってお開きにしました。懇親会后帰宅した人もいますが、大部分のメンバーは琵琶湖ホテルに宿泊しました。



傘寿記念懇親会

吉田紀元、藤田大東、西村喜之、清田守男、後藤周一、中野善文、川合 等
藤川卓爾、林 正広、檜村 勝、長崎 啓、側島克信

翌朝は曇っていましたが、雨の心配はなさそうで、ホテル出発のころから青空が広がってきました。男性9名、女性3名の計12名がJRで近江八幡に行き、先ず「水郷巡り」をしました。これは琵琶湖岸の小さな湖を運河でつないだ水郷を手漕ぎ船で巡回するものです。今年もヨシが元気よく伸びていました。ヨシには浄水作用があり、琵琶湖の水をきれいにすることに役立っているそうです。



近江八幡水郷巡り

次に近江八幡市街に戻り、日牟禮八幡宮に参拝しました。近江八幡市の名前の由来になった神社です。続いて昔の面影を残す市街を散策しました。ここは近江商人発祥の地です。建築家ヴォーリスが近江兄弟社を作ったことが有名ですが、近江八幡市街にはヴォーリス設計の建物がたくさんあります。



日牟禮八幡宮にて



近江八幡市街散策

アンドリュース記念館
(ヴォーリス建築最初の建物)旧近江八幡郵便局
(ヴォーリス設計)

最後に「琵琶湖周航の歌」の6番の歌詞に出てくる長命寺に行きました。タクシーのピストン運転で本堂下の駐車場まで上りましたが、本堂まで100段を超える階段は傘寿メンバーには応えませんでした。本堂から少し足を延ばして太郎坊社まで行くと眺望が開け、琵琶湖や近江富士（三上山）がきれいに見えました。昨日の雨が嘘のようで、今日の快晴で昨日の雨は帳消しになりました。



長命寺境内



太郎坊社から見る近江富士

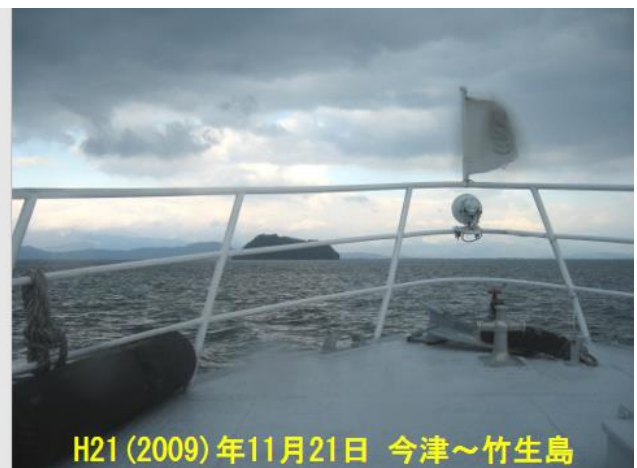
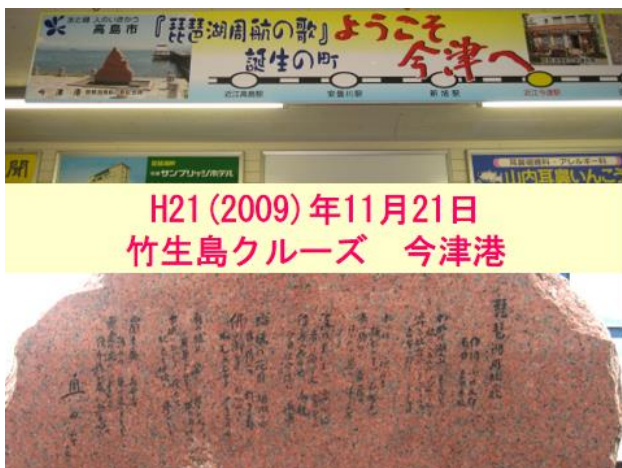
楽しい2日間でした。JR近江八幡駅で「3年後の卒業60周年でまた会いましょう」と約束し解散しました。3年後元気に再会するためには「健康第一」、これを改めて確認した2日間でした。

琵琶湖周航の同期会

藤川卓爾 (S42/1967卒)

令和6(2024)年5月28、29日にS42卒(S38入学)の傘寿記念同期会が開催されました。開催地は滋賀県の大津市と近江八幡市です。この同期会行事全体については幹事の川合 等さん(S42/1967卒)から本短信の一つ前の記事で報告されていますが、ここでは「琵琶湖周航の同期会」の報告をします。

平成21(2009)年11月21、22日に同期の有志で「竹生島クルーズ」を実施しました。「琵琶湖周航の歌」3番の歌詞「今日は今津か長浜か」、4番の歌詞「古い伝えの竹生島」にちなんで、琵琶湖西岸の今津港から船に乗って竹生島を經由して東岸の長浜港に行きました。(「京機短信」No.124にて報告)



「竹生島クルーズ」

今回は再び「琵琶湖周航の歌」の歌詞にちなむ大津市と近江八幡市に行きました。

大津市三保ヶ崎には三高水上部の艇庫があり、「琵琶湖周航の歌」1番の歌い出しの歌詞「われは湖の子」の歌碑と、1番から6番までの歌碑があります。

近江八幡市の長命寺には6番の歌碑があります。長命寺は西国第三十一番の札所ですが、歌詞では「西国十番」になっています。この歌の作詞者の小口太郎氏はもちろんそのことを承知の上で、字余りにならないように「西国十番」としたようです。長命寺の山の麓にある歌碑にはその矛盾を避けるためか6番の歌詞の後半「黄金の波に・・・」だけ刻まれています。しかし山上の歌碑にはそんなことは振り切って堂々と全歌詞が刻まれています。

2番の歌詞の「雄松が里・・・」と、5番の歌詞の「古城・・・」の地には行っていませんが、15年かけて同期会で琵琶湖を周航しました。



「琵琶湖周航の歌」1番と6番にちなむ場所